

普及現地情報



発信年月日:令和7年(2025年)3月12日

所属名:湖東農産普及課

番号:F24023(個有)

発信者名:宇野、川村^智、堤

JA 東びわこイチゴ部会が「みおしずく」現地研修会を開催

今年度、当課が実施しました調査研究(「みおしずく」の苗の次数が乱形果や芯止まり株の発生程度に与える影響)の内容について、令和7年2月28日、JA 東びわこイチゴ部会現地研修会において部会員に情報提供しました。

「みおしずく」は頂果房の乱形果、芯止まり株の発生が問題となっているため、今年度、湖東地域では、「調査研究」として苗の次数を変えて定植した株の乱形果や芯止まり株の発生程度について調査するとともに、育苗から本ほにおける培養液管理や摘葉、病虫害防除等の指導を行ってきました。

今回の研修会では、調査ほ場を訪問して、この結果を部会員に情報提供するとともに、部会員同士の情報交換を行いました。

乱形果の発生率は1次苗と4次苗が高く、芯止まり株の発生は1次苗が最も多く3次苗が最も少なくなりました。この結果を高品質な「みおしずく」の安定生産につなげていくよう促しました。

部会員からは、「親数から定植苗の増殖割合はどの程度だったか」、「次数が異なる苗による収量の違いはあるのか」といった質問や、「自ほ場より草勢が旺盛な「みおしずく」に驚いた」等座学では見られない積極的な発言があり、参加者同士の情報交換が図れました。

今後も、関係機関と連携し、「みおしずく」の安定生産ならびに生産拡大に向けた支援を行っていきます。



乱形果や芯止まり株の発生程度を説明する普及指導員



収穫が続く「みおしずく」